

出典データ	
背景図	横浜市地形図複製承認番号 令3建都計第 9024 号 横浜市建築局都市計画基本図データ (地図レベル2500) により作成
内水浸水想定区域	下水道河川局 緑区内水浸水想定区域 (令和3年4月)
土砂災害警戒区域	横浜市建築局 土砂災害警戒区域 (令和7年7月現在)
土砂災害特別警戒区域	横浜市建築局 土砂災害特別警戒区域 (令和7年7月現在)

想定条件

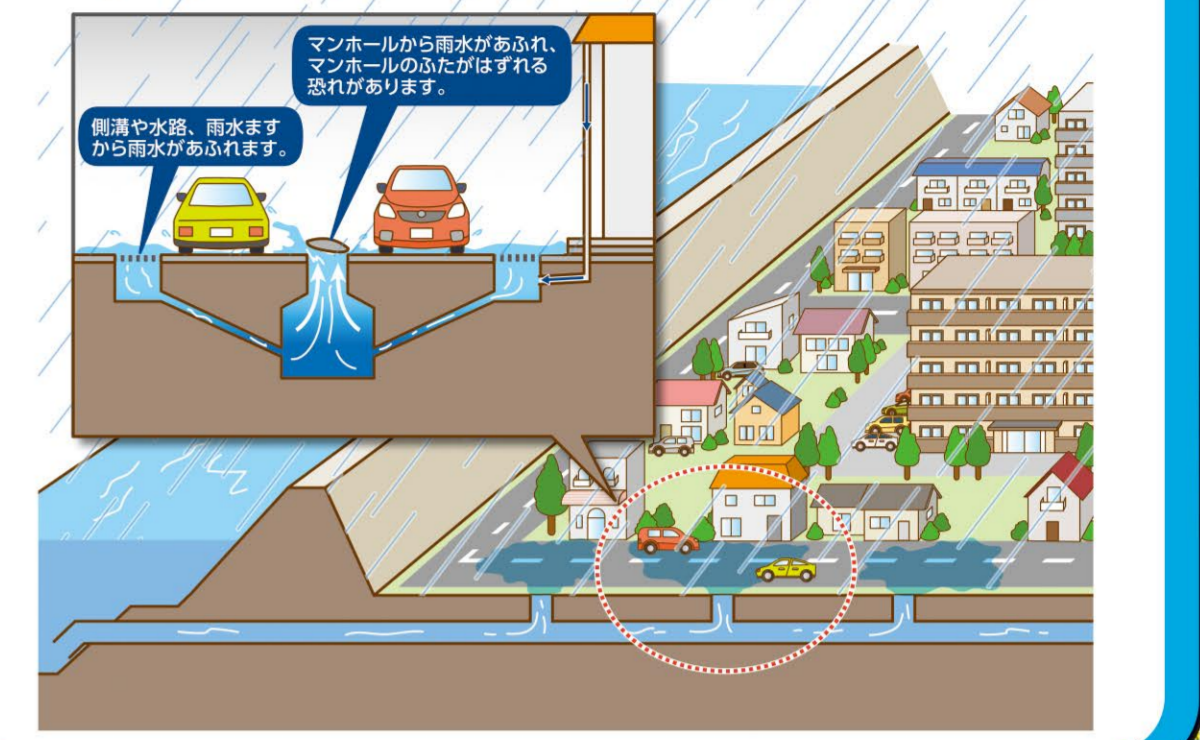
1時間
153mmの降雨

想定最大規模降雨

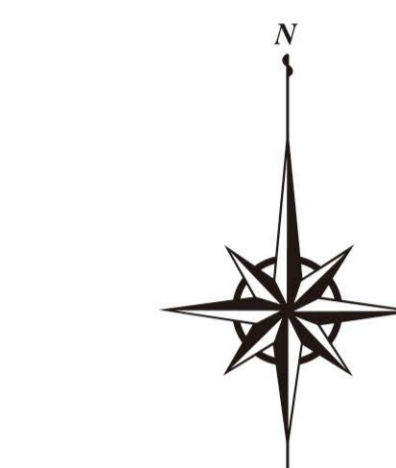
緑区内水ハザードマップ

内水浸水想定区域(想定最大規模)

この内水ハザードマップは、下水道の能力を超える大雨に対して、浸水が想定される区域の皆さんに日頃からの備えや対策をとっていただくために作成したものです。
※河川周辺の浸水想定については、必ず洪水ハザードマップも併せてご覧ください。



※内水氾濫の浸水想定区域図は、平成30年度末の河川や下水道施設等の整備状況および地盤の高さを反映して、横浜市下水道河川局下水道計画課が作成したものです。
雨の降り方によっては、浸水区域や浸水深がこの区域と異なることがあります。



凡例 (Explanatory Notes)

◎浸水深のめやす

2.0m以上 1階の軒下以上
1.0~2.0m 床上浸水相当 1階の軒下まで
50cm~1.0m 床上浸水相当 大人の腰まで
20~50cm 床下浸水相当
2~20cm 道路冠水相当
2cm未満 道路冠水相当

※洪水ハザードマップ・高潮ハザードマップの浸水深とは、浸水程度が異なります。
◎避難する際に注意する箇所

アンダーパス	大雨時に雨水が急激に集中し、冠水して安全な通行に支障をきたすおそれがある場所 (進入すると危険なため、冠水の進行は控えてください。)
土砂災害警戒区域	急傾斜地の崩壊等が発生した場合に、住民等の生命又は身体に危害が生ずるおそれがある区域と認められる区域であり、危険の周知、警戒避難体制の整備が行われます。
土砂災害特別警戒区域	急傾斜地の崩壊等が発生した場合に、損壊が生じ住民等の生命又は身体に著しい危害が生ずるおそれがある区域と認められる区域で、特定の開発行為に対する許可制、建築物の構造規制が行われます。

要配慮者利用施設等の確認はこちらから

指定緊急避難場所一覧 (切迫した災害の危険から逃れるための場所)

指定緊急避難場所とはあくまで避難場所の候補であり、災害時は災害規模や状況によって開設場所を判断するため、すべての避難場所を開設するわけではありませんので、避難する際は、必ず、市・区のホームページやテレビ(データ放送)等で開設されている避難場所をご確認ください。
※指定緊急避難場所(災害対策基本法に基づいた、切迫した災害の危険から逃れるための一時的な避難場所です。災害種類別(洪水や土砂災害など)ごとに指定しています。)

条件等	No.	避難場所	住所	位置	No.	避難場所	住所	位置
洪水などが予想される場合の避難場所	①	東本郷小学校	東本郷5-40-1	I-4	②	山下どり台小学校	北八期町2031-3	F-2
	③	緑小学校	鶴屋5-19-1	H-4	④	三保小学校	三保町1867	E-3
	⑤	鶴屋中学校	鶴屋5-12-35	H-4	⑥	いぶき野小学校	いぶき野14-1	C-2
	⑦	中山小学校	中山4-16-1	G-4	⑧	緑が丘中学校	青葉区千畳台50-1	F-2
	⑨	山下小学校	北八期町1865-3	F-3	⑩	寺山町自治会館	寺山町177	F-4
	⑪	寺山町自治会館	寺山町177	F-4				

横浜市北部に1~4土砂災害危険箇所が発表された場合に開設される避難場所

内水浸水想定区域(想定最大規模)はどうやって決めたの?

この内水浸水想定区域は、想定最大規模の降雨によって、下水道や水路、道路側溝などから水があふれる範囲や深さをシミュレーションしたものです。想定最大規模降雨とは、各地方において過去に観測された最大の降雨量を基本に設定することになっており横浜市では、1999年に関東地方で観測された時間降雨量153mmとしています。

なお、この内水浸水想定区域図は河川の堤防を越えて水があふれることも考慮してシミュレーションしていますが、堤防の決壊は想定していないため、洪水浸水想定区域と浸水深や浸水範囲が異なる場合があります。
必ず洪水ハザードマップも併せてご覧ください。

